

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 宮田 剛志	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ○研究成果 (1) 科学研究費補助金 基盤研究 B 研究分担者 ①西川邦夫・宮田剛志 (2013)「採卵鶏部門における家族経営の成長と安定－棚地黄卵の取組－」日本農業経営学会『農業経営研究』第 51 巻第 3 号、pp.25-30。 2012 年度日本農業経営学会の個別報告（前・東京大学・社会科学研究所/日本学術振興会特別研究員との連名報告 / 2014 年 4 月より茨城大学・農学部・准教授）の内容を論文化した。論文の内容は、(独) 農畜産業振興機構『2011（平成 23）年度 畜産関係学術研究委託調査報告書』（研究代表者：宮田剛志、共同研究者 2 名）に追加調査等を加えたものである。 (http://www.alic.go.jp/content/000101075.pdf) (http://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000027.html) ②学会報告のみ i) 村上智明・宮田剛志「口蹄疫発生後の経営再開の現況と課題－成長と安定性を実現していた家族経営・法人経営に焦点をあてて－」 2013 年度日本農業経営学会の個別報告（9 月 22 日、東京大学・特任研究員・大学院農学生命科学研究科との連名報告 / 2014 年 4 月より高崎経済大学・経済学部・非常勤講師）を行った。 ii) 宮田剛志・西川邦夫・片岡美喜「採卵鶏部門における家族経営の展開と収益性」 2013 年度地域農林経済学会の個別報告（10 月 19 日、高崎経済大学・地域政策学部他との連名報告）を行った。報告の内容は、(独) 農畜産業振興機構、前掲調査報告書、に追加調査等を加えたものである。 iii) 宮田剛志「飼料価格の高騰と大規模養豚法人経営の収益性」 2013 年度農業問題研究学会の個別報告（11 月 23 日）を行った。 (2) 科学研究費補助金 基盤研究 C 研究代表者 ①万木孝雄・宮田剛志 (2013) 「農業者戸別所得補償制度による飼料用米生産の単収低下に関する考察－秋田県JA かづのを事例として－」日本農業経済学会『2013年度日本農業経済学会論文集』pp. 9-14。 2013 年度日本農業経済学会の個別報告（3 月 30 日、東京大学・准教授・大学院農学生命科学研究科との連名報告）の内容を論文化した。 ②宮田剛志・万木孝雄 (2013) 「飼料用米の作付面積の拡大とその収益性－秋田県JA かづのを事例として－」日本フードシステム学会『フードシステム研究』第20巻第3号、pp. 327-332。 2013 年度日本フードシステム学会の個別報告（6 月 16 日、東京大学・准教授・大学院農学生命科学研究科との連名報告）の内容を論文化した。 ③学会報告のみ	

宮田剛志・万木孝雄「大規模法人経営の主食用米と飼料用米の収益性に関する分析－大分県北部地域の農業生産法人を事例として－」

2013 年度日本農業経営学会の個別報告（9 月 22 日、東京大学・准教授・大学院農学生命科学研究科との連名報告）を行った。

（2）の個別報告・論文（掲載）は（公）旭硝子財団からの研究助成も受けている。

(<http://www.aesjapan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2013/02/6499ed47c9a8bf800b443c1da0f23cff2.pdf>)

(<http://www.af-info.or.jp/subsidy/awardees.html>)

（3）（独）農畜産業振興機構『2013（平成 25）年度 畜産関係学術研究委託調査報告書』（研究代表者：柳村俊介・北海道大学大学院・農学研究院・教授） 共同研究者、他 2 名「実態分析と計量分析に基づく養豚経営の生産効率に関する研究」の報告書作成。

（4）紀要等

申鍊鐵・柳村俊介・宮田剛志（投稿中）「稲作地帯における大規模養豚経営の展開－グローバルピッグファーム(株)の(有)東北畜研を事例に－」北海道大学・農学部『農経論叢』北海道大学大学院・農学研究院・博士課程 3 年他との連名で投稿を行った。

○学会活動

（1）政治経済学・経済史学会編集委員（～平成26 年10 月）

(<http://seikeisi.ssoj.info/committee.htm>)

（2）平成 25 年度、学外論文査読・審査本数：3 本（英文 2 本、和文 1 本）

○社会活動

大規模肉用牛経営動向調査 実態調査委員（株）工業市場研究所（～平成26 年3 月）

『平成25年度 大規模肉用牛経営動向調査報告書』 pp. 63-70。

○教育

演習 I

研究室の学部3年生9名にて、平成25年10月より株式会社O商店代表取締役様、全国蒟蒻原料協同組合事務局長様、群馬県庁関係各位様、JA甘楽富岡下仁田営農センター関係各位様、群馬県こんにゃく研究会会長様、をはじめ多くの生産者からの手厚いご支援の下、こんにゃく生産－荒粉・精粉過程の実態調査を行わせて頂いた。その上で、2014 年度日本農業経済学会の個別報告（平成26年3月30日、於：神戸大学・鶴甲第1キャンパス、約100報告/1、600余名の会員、国内の農業経済学分野の最大の会員数）丸山貴弘・新井沙那恵・富澤慎太郎・五十嵐大貴・木村勇也・宮田剛志「こんにゃくいもの生産・原料部門の新たな動態とその特質－群馬県下仁田町O商店(株)に焦点を当てて－」を行い（報告時間：17分、質疑応答：8分）、論文投稿を行った。

なお、本個別報告・論文投稿にあたって、本高崎経済大学・奨学奨励費を賜った。

(<http://www.aesjapan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2014/03/226cef3d9b9653c0943f>)

[79c5e626739d.pdf](#))

演習Ⅱ

研究室の学部4 年生9 名（平成24年度、当時、西野寿章教授研究室の学部3 年生と共同調査。平成24年9月のみ。西野研究室は約100 戸以上、実態調査を行う）と群馬県下仁田町馬山地区の約30戸の実態（農家）調査を平成24 年9 月、11 月に行うことで、「下仁田ねぎの担い手の現段階と農地利用の変化－群馬県下仁田町馬山地区の実態分析より－」を農業問題研究学会『農業問題研究』調査研究Survey research に平成25 年5 月に投稿を行った（研究室の学部4 年生9 名全員の連名にて）。現在、掲載の方向で修正中。以上の経過を踏まえた上で、2013（平成25）年度秋季農業問題研究学会の個別報告（11月23日、於：法政大学市ヶ谷キャンパス）を行った。報告（25分）・質疑応答（15分）は角間崎修平（当時、学部4年生）単独で行った（<http://rural-issues.sakura.ne.jp/>）。
なお、本個別報告・論文投稿にあたって、本高崎経済大学・奨学奨励費を賜った。

2 その他の事項

○著書

（財）農政調査委員会『日本の農業』平成26年度出版予定。

佐伯・宮田（2010）、佐伯・宮田（2011）、小山・宮田（2012）等の研究成果に加筆・修正、追加調査等を行うことで著書として出版する予定である。

○書評（依頼）

谷口信和・梅本雅・千田雅之・李侖美『水田活用新時代』農文協，2010 年，pp.1-347, の書評（日本農業経営学会『農業経営研究』）を行う（平成26年5 月連休明け脱稿予定）。

○論文投稿

学会で個別報告を行った後の論文投稿を行う。

『報告書』に追加調査、加筆・修正を行うことで論文投稿を行う。

○その他

研究プロジェクト進行中、新規研究プロジェクトの立ち上げ等、その他。

以上です。